

改修当時、設計を担当した東畑建築事務所の久保さんは今もエコガイド育成をサポート。子どもたちにトイレの節水について説明する久保さん。



学校トイレ事例

08

[改修6年後]

愛知県豊田市

つちはし

豊田市立土橋小学校

エコ教育やトイレへの愛着は
仕組み次第で受け継がれていく

豊田市立土橋小学校では、視察などの来校者があると、児童が「エコガイド」として校内の環境への取り組みを説明します。

きっかけは、環境省の「エコフロ」事業のモデル校に選ばれ、改修したこと。2012年の改修工事後、視察が多いため、学校の案内と環境への配慮もできる「エコガイド」を育成することに。その後、「持続可能な未来を創るエコガイドの育成」をテーマに、1年生から6年生までのESDカレンダーが作られ、実施されてきました。

「仕組みがしっかり作られたことで、今に引き継がれてきました」（今井信仁校長）

トイレも改修に関わった児童の思いが語り継がれています。「先輩たちが作った大切な場所」として今もきれいに使われています」と、改修を担当した設計士の久保久志さん。

「2020年度から学習指導要領が変わり、アクティブラーニングが導入される。当校ではすでに根付き、成果を挙げています。今後も教育の柱として続けていきたいです」（今井校長）



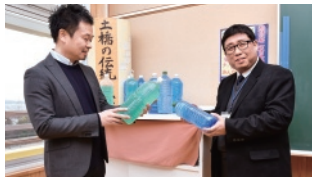
エコガイド中の6年生。小便器の自動センサーは反応後何秒で流れるのが適切かを説明。



車いす使用者でも手洗いができるよう、洗面台の下に空間が設けられていることを説明。車いすでの実演も子どもたちのアイデア。



電力の消費量がわかる太陽光発電の発電量モニターについて説明する子どもたち。



「子どもたちは、ペットボトルを使って大便器のトルネード洗浄による節水量を説明してくれます」と今井校長と久保さん。



研究誌16号(2013年)。改修直後の6年前、エコ学習開始当時取材して以来の土橋小学校再訪です。今もトイレは改修直後と変わらず、においもきれいに保たれていました。電気使用量は改修した次の年に2割、その後3~4割削減。この省エネ実績により、豊田市から表彰も受けました。「ハードに頼るばかりでなく、使う子どもたちの意識が高いために現れた効果ですね」と久保さん。

※1 「学校エコ改修と環境教育事業」のこと。環境省、文部科学省、農林水産省、経済産業省が連携協力し、環境に配慮した学校施設のモデル的整備を推進した事業。
※2 ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳される。